

社会を変える エシカル消費



監修 一般社団法人日本エシカル推進協議会

理事 島田 広

 富山県

1 エシカル消費って何？

「エシカル消費」とは、
「人や社会、環境、地域など周囲に配慮した消費をすること」です。

※「エシカル (ethical)」 = 「倫理的・道徳的」

2015年、国連は17の目標からなる「持続可能な開発目標 (SDGs)」を採択しました。

エシカル消費は、主に12番目の目標である「つくる責任、つかう責任」に関連します。貧困問題、食糧問題、豊かな社会づくりや環境の保全など、SDGsで課題とされているさまざまな問題の解決に、私たちの消費が役立つことが示されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



2 商品の裏側には…

1つの商品が完成するまでには、多くの人々や資源が関わっています。

しかし、現代では国をまたいだ商品・サービスのやり取りが行われるため、消費者が生産から廃棄といった、商品の裏側を知る機会は少なくなりました。

何気なく手にとった商品にも、児童労働や、地球環境の破壊といった問題が隠れているかもしれません。



児童労働

世界では、約1億5千万人の子どもが働き、うち7,300万人は危険を伴う作業に従事しています。働くために学校に通えない子どもも多く、なかなか貧困から抜け出せません。

(2016年ILO発表)



環境破壊

森林伐採、水産資源の乱獲、海洋のプラスチック汚染、地球温暖化など、消費と生産の裏側で数々の環境問題が生じています。

自然災害の増加・水や食糧不足など影響が心配です。



食品ロス

日本では、まだ食べられる食品が年間643万トンも捨てられています。これは、世界中の飢えに苦しむ人への援助量の1.7倍にあたります。

(平成28年度農林水産省推計)

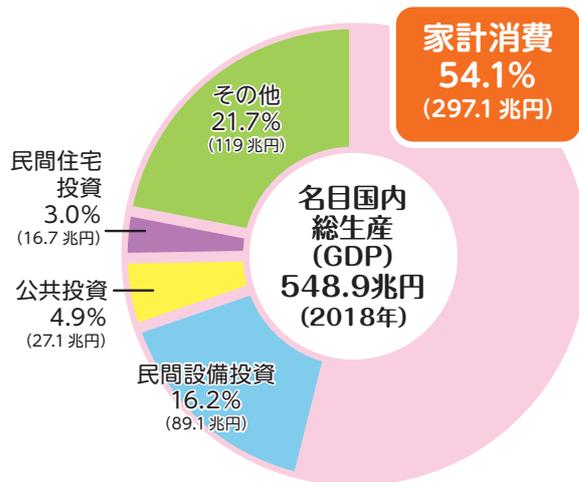


3 エシカル消費って役に立つの？

「買い物は投票だ」といわれます。商品に支払われた代金は、生産者の今後の生産を後押しします。

エシカル消費を心がけ、人や社会、環境、地域に配慮した商品を選ぶ人が増えると、そうした商品を作る生産者も増え、社会全体が豊かで持続可能なものになると考えられます。

家計消費は、日本の国内総生産の50%以上を占めます。買い物は個人の行動のようですが、多くの人があつずつでも取り組むことで、社会に大きな影響を及ぼすことができます。



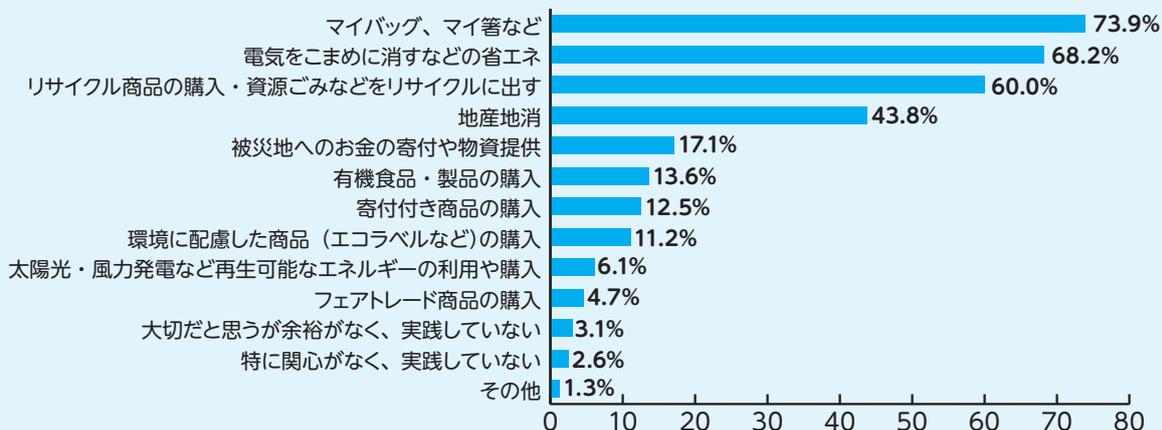
消費者庁「消費者白書」(令和元年度)から作成

コラム 富山県民とエシカル消費

平成30年度の富山県消費者協会のアンケート調査によれば、「エシカル消費」を知っている人は4人に1人で、知っている人の7割は「これからの時代に必要」としています。

また、平成30年7月に県が実施した「消費生活に係る県民意識調査」では、環境に配慮した行動は6割から7割の方が実践されているものの、商品やサービス選択の際には、環境等への配慮より価格が最優先されています。

●人や環境などに配慮して実践していること



●商品・サービス選択の際に意識していること

価格	90.6%
機能・品質	90.1%
安全性	86.2%
環境に及ぼす影響	37.0%
事業者の社会貢献活動等	22.3%

平成30年7月「消費生活に係る県民意識調査」(富山県)
 ○調査対象：県内在住の満18歳以上3,000人
 ○回答者(回収率)：1,565人(52.2%)



4 私たちにもエシカル消費はできるの？

こちらで紹介するのは、エシカル消費の一例です。

エシカルは、人や社会、環境、地域を豊かなものにするための、もう一つのモノサシ。自分だけでなく、周囲の人々や環境にとってもプラスとなる買い物をしてみませんか？

人や社会に配慮した消費

○ 障がい者支援につながる商品、サービスを選ぶ

福祉作業所などで作られた商品を買うことは、それを作った障がいのある方の自立支援になります。

最近では、福祉団体の運営するカフェなどもあり、支援の方法は多様化しています。



○ 寄付つき商品を選ぶ

商品の売上の一部が、寄付にあてられます。

選ぶ商品によっては、地元の商店街の振興から海外の子どもの教育支援など、幅広い支援が可能です。また、買い物と同時に寄付ができる手軽さも、魅力の1つです。

○ フェアトレードやオーガニックなどの商品を選ぶ

開発途上国から原料や製品を不当に安く買うのではなく、生産者の生活に配慮した公正な価格で継続的に買い取る取引を「フェアトレード」といいます。

フェアトレード商品を選ぶことで、開発途上国での児童労働や環境破壊を防ぐことができます。

このほか、生産の際に農薬を使わないオーガニック商品も、作る人の生活や健康を守ることに繋がります。



商品

公正な価格
での支払い



○ 必要な人に必要な商品が届くよう、不要な買いすぎ、買いだめは控える

災害のときなどに、「〇〇がなくなる」などのデマが流れ、一部の商品が品切れになることがあります。

正しい情報を見きわめ、他の人の分が残るよう適切な量を買いましょう。

地域に配慮した消費

○ 地元で作られた商品を選ぶ（地産地消）、地元のお店で買い物をする

スーパーに行ったとき、自分の住んでいる地域でとれたものを選んでみましょう。

地元の生産者を応援でき、フードマイレージ（食料の輸送にかかる距離。大きいほど輸送中に排出されるCO₂が多くなる）の削減にもつながります。また、生産地が近いので、新鮮さも保たれています。

さらに、地元のお店や地元で作られた商品を買うことで、地域経済が豊かになります。



○ 被災地で作られた商品を選ぶ（応援消費）

災害のニュースを見て、「自分に何かできないだろうか」と考えた経験はありませんか。

ボランティアをしに実際に現地に行くのが難しいときは、被災地で作られた商品を買うことで復興を応援できます。

○ 伝統工芸品を買ってみる

伝統を未来に受け継ぐよう、応援できます。

環境に配慮した消費

○ ムダの少ない商品を選ぶ

長く使い続けられる商品か、食べ物であれば食べきれる量なのか、購入する前によく考えてみましょう。

○ 環境への負荷が小さい商品を選ぶ（グリーン購入）

グリーン購入とは、環境にかかる負荷が小さくなるよう、配慮して作られた商品を選ぶことです。環境ラベルが目印になります。

例えば、リサイクル商品は、ごみになる量が少なくなります。

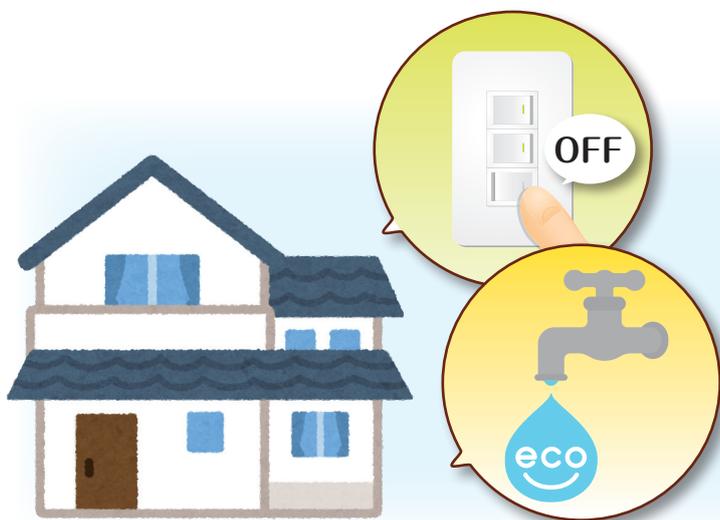
○ 資源の保全につながる商品を選ぶ

木材や魚介類などは、私たちの生活に身近な資源です。これらの資源が枯渇しないよう、配慮して作られた商品には、マークやラベルが付いています。



暮らしの中のエシカル消費

日々の暮らしの中でできるちょっとした工夫が、エシカル消費につながります。きっかけは身近なところにあるため、知らず知らず「エシカル消費」を実践していたということも多いのではないのでしょうか。無理なく続けられる、自分なりのエシカル消費を見つけてみてください。



家で

- ・部屋の照明をこまめに消す。
- ・水道の水の流しっぱなしに注意する。
- ・冷蔵庫の中身を確認してから買い物へ行く。
- ・必要な分だけ買い足して、余る食材が出ないようにする。

外で

- ・近場へ出かけるときは、徒歩や自転車で行く。



お店で

- ・スーパーの資源ごみ回収所に集めていたペットボトルを置いていく。
- ・マイバッグを持参し、レジ袋を断る。
- ・フェアトレードのマークのついたチョコレートやバナナを買う。
- ・県内産のお米や、地域でとれた野菜を買う。
- ・見た目や価格だけでなく、生産や廃棄など商品の一生を考えて商品を選ぶ。

富山県におけるエシカル消費の取組み

県としては
全国初

レジ袋の 無料配布を廃止

富山県が2008年4月に開始した「レジ袋無料配布廃止」の取組みは、県単位では全国初の取組みでしたが、現在は全国に広がっています。

取組み開始前は10～20%だったマイバッグ持参率は、現在は95%と高い水準を維持しています。

この取組みは、プラスチックごみの削減はもちろん、二酸化炭素排出量や石油使用量の削減にもつながっています。

また、レジ袋の収益金は、地域の環境保全活動に役立てられています。



(生活環境文化部 環境政策課)

食品ロス削減に向けた取組み

・とやま食ロスゼロ作戦

消費者と事業者が力を合わせて食品ロスをかきこく減らそうという取組みです。特設ホームページでは、食品ロス削減のためのアイデアや、食材を使いきるためのエコレシピなど役立つ情報を掲載しています。

・3015 (さんまるいちご) 運動

「使いきり」と「食べきり」を推進するため、県民になじみの深い立山の標高にちなんで、30と15をキーワードにした富山型の食品ロス削減運動です。

「使いきり 3015」：毎月30日と15日に冷蔵庫をチェックして使いきる。
「食べきり 3015」：宴会開始後30分と終了前15分に食事を楽しむ時間を設定して食べきる。



・とやま食ロスゼロ作戦

(食品ロス削減について)

<https://foodlosszero.jp/sitemap>

(農林水産部 農産食品課)

とやまエコ・ストア制度

レジ袋の無料配布廃止の成功を受け、更なるエコライフの拡大を図るために創設されました。

店舗で資源回収を行ったり、店内の空調を適温に設定したりといったエコな取り組みを行う小売店舗を「エコ・ストア」として登録します。

制度への参加は無料であり、協定などの締結も必要なく、簡単な登録制をとっている点がポイントです。

・とやまエコ・ストア制度

<http://www.pref.toyama.jp/sections/1705/ecostore/index.html>



(生活環境文化部 環境政策課)

地産池消の推進に向けた取組み

・地産地消「とやまの旬」応援団

地産地消に取り組む企業・団体、個人に向けて、地産地消のイベントや県産農林水産物等に関する情報を、メールマガジンで提供します。企業・団体団員へは、ステッカーとのぼり旗、個人団員へは団員証をお配りし、地産地消を県民運動として推進しています。

・富山県産品購入ポイント制度

キャンペーン期間中に、県産品シールや県産を示すラベルを集めて応募すると、富山の特産品が当たります。

・越中とやま 食の王国 (地産池消について)

<https://shoku-toyama.jp/>

・地産地消「とやまの旬」応援団

<https://shoku-toyama.jp/support/about.php>



(農林水産部 農林水産企画課)

探してみよう! いろんなマーク

ご家庭やお店にある身近な商品に、いろんなマークが付いていませんか?

目立たないけれど、作る人の思いのこもったマークをいくつかご紹介します。

世界共通のマーク				日本のマーク
 <p>FSC® 認証 (FSC マーク)</p> <p>森林資源の保全に配慮して作られた製品に付いています。</p>	 <p>MSC 認証 (海のエコラベル)</p> <p>水産資源や環境に配慮した、持続可能な漁業で獲られた水産物に付いています。</p>	 <p>GOTS 認証 (オーガニックコットン)</p> <p>オーガニックコットンなどの天然繊維を使用し、環境と社会に負荷を掛けない方法で従業者の人権や安全を守り製造された繊維製品であることを示しています。</p>	 <p>国際フェアトレード認証ラベル</p> <p>国際フェアトレード認証の対象商品は、コーヒー、カカオ、コットン、紅茶、バナナ、花、スポーツボールなど多岐に渡ります。</p>	 <p>エコマーク</p> <p>生産から廃棄まで、商品のライフサイクルを通して環境への負荷が小さくなるように作られた商品であることを示します。</p>
富山県のマーク			日本のマーク	
 <p>E マーク (富山県ふるさと認証食品制度)</p> <p>主な原材料が富山県産の良質な農林水産加工食品であることを示します。</p>	 <p>富山県リサイクル認定制度シンボルマーク</p> <p>県が認定したリサイクル製品、リサイクル等に取り組む事業所、資源物の回収拠点であることを示します。</p>	 <p>「富山県推奨とやまブランド」ロゴマーク</p> <p>県産品の中から、特に優れたものを厳選して認定し、その魅力を広く全国へ発信しています。</p>	 <p>エコファーマーマーク</p> <p>持続性の高い、環境にやさしい農業を実践する農業者(エコファーマー)が生産した農産物に付けられています。</p>	 <p>グリーンマーク</p> <p>原料に一定割合以上の古紙を利用して作られた商品に付いているマークです。古紙の利用を拡大し、紙のリサイクルを促進する意図があります。</p>

本冊子に関するお問い合わせ 富山県生活環境文化部 県民生活課
富山市新総曲輪 1-7 ☎ 076-444-3129